



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達^{せんだつ}
(先達とは案内責任者)

クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん…

『今日は、地藏菩薩の話であったな。日本仏教の信仰対象で、地藏尊と観音様信仰は、人気の双壁じゃが、地藏尊信仰が篤い理由をクニマッスは知っておるかろう。』

『地藏菩薩は、お地藏様として、昔から、人々に親しまれているでまっすん。地藏信仰が篤いのは、まだ小さい時に亡くなった子供を、守り、助けてくれると信じられているかでまっすん。10歳に足りない子供は、親よりも先に亡くなった親不孝

の罰として、「賽の河原」に落ちてしまうでまっすん。賽の河原には、日の入る時間に地獄の鬼が来て、「我を恨むこと勿れ」と、積んだ石の塔を黒い棒で押し崩してしまうでまっすん。』

『クニマッスは、よく学んでおるのう。この話が、「賽の河原地蔵菩薩和讃」という御詠歌になっておるんじゃ。「父上恋し母こいし、恋し恋しと泣く声は、この世の声とはこと変わり」「是にて回向の塔をつむ、一重つんでは父のため、二重つんでは母のため」とな。そんな可愛そうな子供を、憐れに思う地藏様は、幼きものをみ衣の裳裾の裡にかきいれて、未だ歩まぬ嬰兒は、錫杖の柄に取りつかせ、抱き抱えて撫で擦り、救ってくれると言うんじゃよ。ここまでのお話では、お地藏様は、子供だけを救う仏様だと勘違いされてしまうかもしれんな。』

『別の話もあるでまっすん。「六地藏」というお地藏様は、天、人、阿修羅、畜生、餓鬼、地獄の六道輪廻から迷える衆生を救い出す役割を担った菩薩でまっすん。地獄に向かう亡者を娑婆と地獄の境界で、地獄の十王が亡者の業の履歴が記された閻魔帳により、地獄に送るかを評定するでまっすん。その裁判で、被告の弁護をするのが地藏菩薩でまっすん。しかし、裁判長である閻魔大王は、地藏菩薩の化身であると言われてるので、情状酌量の余地が生まれるでまっすん。生きている間、地藏菩薩を信仰することによって、心穏やかに生きられるでまっすん。けれど、不思議でまっすん？人は、「地獄に行きたくない」と考える。ところが、「地獄に落ちるほど、悪いことをした意識があるの？」と聞いても、答えられるほど意識的な罪悪感は多分ないでまっすん。ということは、無意識に、何らかの罪の意識があるということではまっすん？それが、様々な祈りに繋がっているということではまっすん。』

『そうかもしれんな。この世は矛盾だらけじゃ。人の心もまた、矛盾しているものじゃ。だから、祈ることが大切なんじゃよ。祈ることによって、心が穏やかになるのじゃろう。心が穏やかになると、他者を気遣う心が生まれるんじゃ。地藏信仰は、人々の生活と密着した、分かりやすい教えだったようじゃな。さて、今回は、観音信仰の話をしようかのう…』